

# グループホーム しじみ苑

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		この理念の意味を忘れないために、毎朝申し送り前に利用者に向かって理念を唱和し業務に入る取り組みを実践している。また、理念の意味を文章化して各スタッフに配布、玄関には理念に込められた意味を外部や家族にも理解していただく為、目立つ所に掲げている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組みがない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価について、取り入れられる部分については改善をしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、市町村職員や区長、民生委員、家族で構成し事業報告や利用者の状況報告等を実施している。家族の参加が未だ少なく出席しても意見が殆ど出ずといった状態。その為、日頃の家族が面会時に家族の意見を聞いたりして活用できるように、もっと意義のある会議が出来るように努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは状況に応じて分からない事がある時などは行き来し助言してもらうなど情報交換を行う関係作りが出来ていると思う。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の機会が無く熟知出来ていない。研修で貰った資料はあるが、現時点で成年後見制度を利用している利用者がいないという状況ではあるが、必要に応じてきちんと説明が出来るような状態になるためにも研修を必ず受けて熟知が出来るようにする体制作りを行う。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑での利用者に対しての虐待は無いものの、職員の虐待に対しての知識は完全ではなく熟知していないのが現状な為、虐待についての研修会や勉強会をし習得する必要がある。		

## グループホーム しじみ苑

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員募集や採用に関しては、最低ヘルパ-2級の資格を取得している事を基本にしており年齢や性別等の制限はしていない。面接の際は必ず代表者と管理者2人で行っており採用に取り組んでいる。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>必要に応じ代表者にもミーティングに参加して頂き、日々のケアやサービス提供、利用者に対する対応等について話し合いを行っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修内容を検討し、職員に対して必要な研修を受講するように勧めている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>行政へ地域の同業者の交流を依頼し、交流の機会を設けた。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>施設外でも食事会や地域開催のパーティー等に参加してもらっている。</p>		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている			今後は、年度の初めに個人個人の目標を定め、達成度に応じた処遇を試みたい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	適応障害も多く見られる認知症高齢者な為、まずは馴染みの関係作りから始め、本人の思いや望む事、求める事等を聴く機会を日頃から心掛けている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	苑での生活に大きく反映されるため、家族からの情報は重要である。入所する前の面談では家族の声をなるべく多く聴く機会を作るように努めている。言いやすい環境作りを心掛け、家族の心情が聞けるよう努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい環境での生活は認知症高齢者にとっては大きなストレスであり不安感が強く周辺症状も出現・助長させてしまう恐れが十分にある為、まず本人の日常生活の状態を見させていただき家族にその様子をこまめに報告しその中で本人と家族とで何が一番本人にとって必要なサービスなのかを相談しながら話しをし対応に努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	極力、可能であるならば家族のみで相談するのではなく、本人を入所前に見学して頂き、納得された上で入居してもらうようにしている。状況により体験入居の機会も提供しており、周囲の利用者やスタッフ、場の雰囲気に少しずつでも馴染んでいただけるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の性格や生活歴等を考慮してその人に合った関係作りに努めている。家庭的で温かい雰囲気を大事にしているので、利用者の状況によっては怒ったり、一緒に楽しんだり、悲しんだり利用者を中心としたケアが出来るよう信頼関係作りに努めている。怒った時には必ずフォローをするようにスタッフに伝達している。		

## グループホーム しじみ苑

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	認知症高齢者をケアする上で、家族の存在は重要であり、家族の協力は必要不可欠である。日頃から家族と信頼関係作りを心掛け、家族と一緒に喜んだり、楽しんだり、怒ったりと家族・利用者・スタッフが支えあっていけるような関係作りを築いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	まず、入居する際に認知症高齢者をケアする為には、家族の協力が必要であり、その旨を家族にお願いをしている。また、苑に入所してしまうと本人と家族の関わる時間というのも限られてしまうので、面会を始め施設行事でバーベキューやクリスマス会など、家族も一緒に参加出来るように一緒に交流する時間を設けるように良い関係が築けるようにしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで生活してきた馴染みの環境や馴染みの人間関係は認知症高齢者をケアする上でとても大切なことであることを家族にも理解していただき、苑に入居したからそれで終わりではなく、そういう関係が継続していけるようにケアに努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格が大きく左右されるので、関係にも合う・合わないがはっきりしている。日頃の生活をよく観察し利用者同士の関係を把握しケアに反映させるように努めている。孤立を防ぐため、お互いが協力して活動が出来るように、役割提供やレク活動等、共同で関わり合いが持てるような環境作りにも努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむを得ない状況で契約を終了していても、そこで終わりではなくまた機会があれば、本人の状況にもよるが、苑での生活に支障がなければ再度受け入れる方針はある。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の生活背景や生活歴等を利用者とのコミュニケーションや家族からの情報から収集し、利用者の希望や意向を尋ね把握に努めている。それ以外でも、日頃の生活の様子をよく観察し小さな事でもケア記録に記載しスタッフからの情報も聞きながら利用者本位のケアが出来るように努めている。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症高齢者をケアする上で、その方の生活歴や今までの生活の仕方、環境等重要なアイテムとなるため、家族から本人に関する情報を多く収集し、苑での生活がその人らしく暮らし続けていけるように日頃の生活の様子が把握出来るように努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各利用者の日常生活やADLの状況など、心身の状態なども気づいた事があればその様子などをケア記録に記入するよう職員に徹底させている。記録やミーティング(カンファレンス)の際に情報交換をして反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活歴や性格、入所前の生活から苑での生活リズムを確実に把握し、本人とその家族からの要望や意向を聞き取り、カンファレンスでスタッフの意見やアイデアを反映したケアプランが作成されるように努めている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い3ヶ月後の見直しを行っている。見直し前の状態変化により対応が出来なくなった時はその都度プランを変更し、現状に即した新しいケアプランを作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はその人の生きてきた証であり、スタッフには記録の重要性を伝達している。必要に応じ記録処遇の研修を取り入れ、日頃の利用者の状態やケアの実践、気づきや対応に対する結果など、些細な事でも記録に残すよう伝達している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に合わせ、医療機関への受診や家族の宿泊や外出等の要望に応じて柔軟に取り組んでいる。また、母体であるケアハウスが併設しており、行事等は合同で取り組みを行ったりしている。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎年、近隣の小学校との交流会や保育園児との交流会、また、中学校からは体験学習を行っており、地域資源との協働に努めている。また、年に2回消防からの協力を経て避難・消防訓練を実施している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームでの対応が困難になった場合には、本人の必要性に応じ適したサービスを利用するため、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合いを行いサービスを利用するための支援をしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点で地域包括支援センターとの協働はない状況である。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族の意向を聞き、かかりつけ医への受診支援を行っている。また、利用者の状態が急変、変化した場合は専門医へ受診が出来るように利用者及び家族から了解を得て支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の疾病がある為、神経内科や脳外科の専門医を主治医とし定期的に受診している。それ以外の専門医のかかりつけが無い方に関しては、状態に応じて家族への報告と必要に応じて専門医に診てもらえるように対応している。また、利用者の周辺症状によってはどう対応していいのか？等相談し関係を築けていけるようにしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	大きい病院だと気軽に相談というのは難しい部分もあるが、個人病院では利用者とはある程度顔馴染みの関係が図れている。また、今年度から医療連携体制をとっており地域の訪問看護ステーションとの契約で毎週水曜日に日常の健康管理や緊急時には対応時の助言などを頂いており気軽に相談出来る関係である。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した時は、苑の方針で入院後2ヶ月までは居室を確保出来るのでその旨を病院関係者に伝え、利用者に関する情報は病院関係者とこまめに必要に応じ情報交換をしている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>今年から医療連携体制を取り入れ、その中に看取りに関する内容が取り組まれている。現時点で、看取りケアを実践した事が無く、今後の事を踏まえて、看取りケアに関する勉強会を内部研修会で取り入れ看取りに関する理解を高めていけるように努めている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現時点での看取りケアの実践はないが、今後の事を踏まえて勉強会を実施する。今までの事例が無く何とも言えないが、今後の利用者の変化に備えて全スタッフと十分な話し合いが必要と思う。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人と家族とで十分な情報・意見交換を行い協力しながら極力本人へのダメージがないように配慮しながら対応を心掛けている。本人には極力納得して頂いた上で対応している。</p>		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ひとりひとりの生活歴や性格を考慮したコミュニケーションを図るようにしている。言葉遣いには十分注意し、本人の自尊心を傷つけたりする事の無いように、臨機応変に状況によっては傾聴的に、ある時はさりげなくフォローを行う等の工夫をスタッフ間でも利用者の情報交換を行っている。記録に関しては個人情報の規定により鍵付きの保管場所へ保管・管理している。</p>		

グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者個人個人の性格を把握し、その人に応じた関わりを持っている。スタッフと利用者とはよくコミュニケーションが図れており、さりげない日常会話の中で利用者の思いや希望等を聞き取りその中で本人の有する能力に添って本人に選択してもらい機会を作ったり本人が生き生きと生活が出来るように支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務内容によっては時間に追われゆとりを失う職員がいたりする事もあるが、そこは上手くフォローに入ったりして利用者の生活リズムが損なわれないように、生活リズムに添った過ごし方が出来るように取り組んでいる。利用者にとっては周りにいる職員も環境の一部である事を職員に伝えている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意志を尊重し、本人の希望する美容院がある場合には昔から行きつけの美容院に連れて行ったり、本人の行きたい店に連れて行き洋服を買ったりする事が出来るように努めている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事では季節感が感じられるように極力初物の食材を使用し、食事からも季節感を楽しんでもらえるように努めている。生活のリハビリとして毎日利用者と職員と一緒に食器を洗ったり、お茶を汲んだり、材料の下ごしらえ等をして頂いている。レクリエーションの一つで、ホットケーキを作ってもらったり、鈴なりカステラを作ってもらったりと活躍する機会を作っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は行事のみに提供している。たばこは吸う人がいない。個人で購入したおやつ等は精神衛生上、居室で個人管理にはしておらず、職員が預かり保管し、おやつ時に個別で提供している。また、曜日を決めて本人の好きな嗜好品を買いに連れて行ったりしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人別に排泄パターンチェック表を準備しており、個人個人の排泄パターンを把握している。利用者の状態に応じて排泄の誘導を行い、排泄の失敗や下着・パッドの汚染が無いよう排泄が出来るように支援している。汚染した下着やパッドは適宜交換している。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴を行い、時間は13:00～17:00の間で入浴時間を設けている。利用者より「いつもあの人は1番」等の不満・苦情があり公平を保つ為、順番表を作成し入浴して頂いている。体調不良により入浴が出来ない場合は清拭を行っている。基本的に皆さん入浴は大好きであり拒否したりする事は殆どない。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣やパターンを把握し、その時の状況に応じ居室でゆっくり休むよう促したりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る事・出来ない事の把握を見極めて、利用者が活躍する機会作り心掛けています。毎日、その人に添った役割提供を行っており、決して強制的させるのではなく、楽しく参加してもらえるように支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額程度であれば本人に管理してもらっている。個人によっては通帳を保管・管理しており、毎月のお小遣いを決め、本人が所持をし決められたお小遣いで好きなものを購入したしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節的に天候に恵まれる日が続く時は利用者が屋外散歩を希望し日課で散歩を楽しまれる利用者もいる。それ以外に年間行事に組み込まれている行事(ドライブや外食、花火大会見学)等外出する機会を作り気分転換を図っている。また、なかなか外泊を勧めるも難しい場合は外出だけでも勧めて、家族や馴染みの関係との交流を大事にしてもらっている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事の中にバーベキュー大会やクリスマス会等、家族も一緒に交流を図りながら同じ時間を過ごす機会を作っている。また、本人の心身の状態によっては家族の協力を得て、気分転換に数時間外出を勧めてみたりしている。また、外食レクでは利用者の食べたいものを尋ね、苑では普段食べれない食事を食べに外出したりしている。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はるばる他県から滅多に会う事の無い親戚の方が面会に来られた際は利用者がハガキを出したいと希望され、やりとりが出来るように支援した事はある。また、誕生日やお祝い事になると電話が掛かってきたり、また本人の希望で電話を掛けたいと言われた時などは電話のやりとりが出来るように支援をしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や外部の方達には、変な緊張感や圧迫感是与えないような、苑の理念の方針でもある「温かい施設」をモットーに気兼ねなく、気軽に訪問が出来るような雰囲気作りを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の身体拘束についての研修会の参加はない為、職員の完全な理解がある状態ではないが、身体拘束ケアマニュアルを設置しており各職員が目を通して少しでも理解して日常のケアに反映出来るようにしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ひとりひとりの生活行動パターンを職員が把握できており、鍵を掛けなくても安心して生活が出来るよう、自由に生活が出来るように対応を心掛けている。玄関にはセンサーを設置し、安全を確保するため、状況によってはスタッフが一緒に付き添い屋外活動の支援を行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は殆どの利用者がリビングで過ごされておりスタッフには常に利用者の所在を確認するように伝達している。普段いる場所に姿を見せない時はトイレなどの場所確認等を行っている。また、夜間は2時間おきの巡視を行っており、利用者の安全確認を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症の状態によっては危険であると判断した場合には危険物の除去などを行っているが、危険でないと判断している利用者には危険物とされる物品を敢えて除去などせず、本人の目が届かない 場所への保管など、保管の工夫をしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各マニュアルがあり、全スタッフがマニュアルに目が通せるように見やすい所にマニュアルを設置している。また、年二回施設内での消化・避難訓練を実施し、消防署主催の勉強会への参加も行っている。事故が起きないように日頃から利用者の所在や行動の様子等常に見守りを行い事故に繋がらないように防止に取り組んでいる。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	資料や事前の急変時の対応の仕方について、事前にすべき事についてはスタッフに伝達をしている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を実施。夜間を想定した訓練や寝具を利用した避難方法教えてもらう。災害マニュアルを作成し、緊急時連絡先や地域住民の協力などを運営推進会議を通じて協力が得られる体制を取っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族が来苑した際は、家族に日頃の様子を報告。また、認知症の周辺症状が出現し、苑での対応に限界が生じた場合は家族の協力を得て、連絡し対応して頂いている。この事は入所前の面談で家族に説明をしひとりひとり異なる利用者の状態を日頃から家族に話しをする事で家族自身も現状の利用者本人の様子や状態を理解する事ができ施設特有の抑圧感とは与えないように対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の日々の生活を観察している事で、普段と様子が違う等の異変に気づく事が出来ている。また、毎日のバイタルチェックを行っており、必要に応じて、訪問看護へ連絡し指示や状況によっては来苑、かかりつけ医への受診を行い対応している。また、職員間の情報交換(申し送り)等の徹底を図り少しの変化でも見落とさないよう、大事に至らないようにひとりひとりの日頃の状態観察に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬している処方箋をすぐ確認できるような場所に資料を保管している。また、病院で新しく処方されたり、中止したり、服薬する事で起こる副作用などの薬が出た場合にはきちんとケア記録とスタッフ間の情報の共有を図るため、申し送りを徹底している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘による原因や便秘が引き起こす影響をスタッフは理解し、便秘を防ぐ為に1日最低でも1000cc以上は水分を摂取するように定時・随時の水分提供を行っている。水分以外でも毎日の午前中に行われる運動の時間や、食材(食物繊維)の工夫等も考慮して便秘予防に取り組んでいる。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は必ず口腔清拭を実施。義歯も本人が洗える所は洗って頂き、不十分な箇所については職員が一部介助で洗浄し清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節感を取り入れた食材を取り入れるようにしている。また、糖尿の持病がある人や心疾患のある人は減塩にしたり、御飯の量を調整し提供したり、ひとりひとりの状態を観察し、水分チェックや食事量チェックを記録して食事・水分状態を確認している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、常にスタッフが確認できるように設置している。苑内では換気や手洗い、うがいを徹底しており外出時は本人が拒否しない限りではマスクの着用等を促し、感染予防に努めている。流行性の感染症に関しては研修で知識を得てスタッフに伝達し、必要な物品の準備をしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎週日曜日に冷蔵庫チェックを行い、賞味期限切れの食材の確認や冷蔵庫内の清掃・消毒を行っている。また、毎日常時使用する器具(まな板等)は毎日随時塩素系消毒を行っており衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特別工夫などはしていないが、季節ごとの花を植えたりしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑内は暖色系の電器で不快な光は無く、自然光を多く取り入れる事が出来る自然の感じられる良い環境である。ミーティングではスタッフ自身も利用者にとっては環境の一つであることを伝えており、話す時や笑う時も配慮しながら気をつけるようにしている。		

## グループホーム しじみ苑

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとり思いのまま一日を過ごしている。自然とリビングに利用者は集まり、殆ど居室で寝て過ごす人がいない状況である。気の合うもの同士居室へ行き来したり、一緒にソファに座って話しやテレビ鑑賞をしたり、自由気ままに過ごしていただいている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の苑内の案内や説明の際に、使い慣れた道具や好みのものであれば本人にとって安心できる要素になることを説明し協力して持ってきていただいている。日々の生活を送る中で必要に応じて、家族と相談をしたりしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はこまめに行っており、利用者が直接触れない場所の窓を開けたりして換気は常時行っている。また、温度調整はこまめに行ない、利用者を確認しながら調整をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内全てバリアフリーで手すりもついており、ひとりひとりの利用者の身体機能動作をスタッフが把握し、必要以上の介助はしないよう「できること・できないこと」をきちんと理解し利用者のケアに努めている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る事・出来ない事をスタッフがきちんと理解をし、役割提供やレク活動の他、コミュニケーション等でも利用者の状況に応じて混乱や失敗による負担を掛けないように配慮しながら自立支援が出来るようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは日当たりが非常に良く、自然を十分に感じる事が出来る環境になっている。季節的に過ごしやすい日は利用者をベランダへ誘導し日光浴をしたり、日光浴がてらコミュニケーションや歌を歌ったり、散歩したりレクリエーション活動を行っている。また、役割提供では洗濯を干してもらったりしている。		

グループホーム しじみ苑

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## グループホーム しじみ苑

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)